

令和3年度 学校評価書 具体的取り組み・評価の観点・判断基準 (家庭地域学校協議会意見反映)

あわら市北潟小学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	R3	R2	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
基礎学力の伸長と言語活動の充実 確かな学力の向上	①朝学習や授業での小テスト、家庭学習、漢字計算月末テストで基礎学力の定着を図る。	家庭学習の課題を工夫して出したり自学(3年以上)を継続的に推奨したり努める。(取組指数) 教員	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	私は、基礎学力が定着するよう課題を工夫して(3年以上;自学の推進を含む)	100	100	毎日の家庭学習、毎月の月末テストおよび学力向上週間等の取り組みは基礎学力の定着に一定の成果が出ていると考えられる。	・児童の上位への意識改善がみられる。 ・基本、現在の指導を継続して進める。タブレットを用いた家庭学習が来年度行えることから、個に応じた学習をタブレットを活用しても行えるようにする。その際、タブレットを利用する時間を決める等、ルール設定を行う。	・昨年度より各項目とも改善が見られ良いと思う。 ・日々勉学に励むことの大切さを理解させてほしい。
				A 毎日、継続的に出した。	71	67			
				B ほぼ継続的に出した。	29	33			
				C あまり出さなかった。	0	0			
				D ほとんど出さなかった。	0	0			
				家庭学習に時間いっぱい取り組む。1.2.3年30分 4年以上は学年×10分(成果指数) 児童	私は、毎日の家庭学習(宿題、自学;3年以上)を ※こどもクラブを含む	94			
	A 毎日、時間いっぱい取り組んだ。	66	44						
	B 週に4日以上、時間いっぱい取り組んだ。	27	41						
	C 週に2日は、取り組んだ。	5	7						
	D ほとんどしなかった。	1	8						
	わが子は家庭学習に時間いっぱい取り組んでいる。(満足度指数) 保護者	あなたのお子様は、家庭学習(宿題、自学)に、	80	73					
	A 毎日時間いっぱい取り組んでいる。	50	26						
	B 週に4日以上、時間いっぱい取り組んでいる。	30	47						
	C 週に2日は取り組んでいる。	12	19						
D ほとんどしていない。	8	8							
②授業力の向上を図る。	授業の中に、活用力を高める要素を多く取り入れる。(取組指数) 教員	【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	私は、活用力を高めるための要素を多く取り入れた授業を	100	100	今年度は、「学びを生かし、考え、表現する児童の育成」～主体的・自立的で深い学びを通して～を研究テーマとして授業改善に取り組んでおり、授業の中に活用力を高める要素を多く取り入れる場や、自分を表現する場を多く取り入れようと努力してきたことが、一定の成果を上げている。	・児童の上位への意識改善がみられる。 ・1時間に一人1回は発表する場を設ける。 ・振り返りで自分の言葉でまとめる時間を多く設定する。 ・休み時間などを活用して学習した内容などの意見を聞く場を設ける。 ・NIEの活動を継続し、新聞を読んで読み取り活動を入れたり、意見を表現したりする時間を設ける。	・児童の理解が向上しているのがとても良い。 ・小学生の頃は担任の先生の影響が大きい。 ・児童の成長に合わせて、ゆったりとした授業を望みます。	
			A 毎日、行った。	100	0				
			B 2日に1回は行った。	0	100				
			C 週に1回は行った。	0	0				
	D ほとんど行わなかった。	0	0						
	授業や生活の中で、自分の考えを伝え合ったり、作文を書いたりする場を設定する。(取組指数) 教員	私は、授業や生活の中で、児童が自分を表現する場を、(作文を含む)	100	100					
	A 毎日、設定した。	71	25						
	B おおむねは設定した。	29	75						
	C あまり設定しなかった。	0	0						
	D 設定しなかった。	0	0						
毎日の授業で、自分の考えを伝えたり作文を書いたりする。(成果指数) 児童	私は、授業や生活の中で、自分の考えを伝えることが、(作文を含む)	93	86						
A よくできた。	45	32							
B できた。	48	54							
C あまりできなかった。	7	14							
D できなかった。	0	0							
毎日の授業がよく理解できている。(満足度指数) 児童	私は、毎日の授業について	99	91						
A よく分かる。	47	54							
B だいたい分かる。	52	37							
C あまり分からない。	1	9							
D まったく分からない。	0	0							
毎日の授業について理解していると感じる。(満足度指数) 保護者	あなたのお子様は、毎日の授業について	95	84						
A よく理解している。	14	18							
B だいたい理解している。	81	66							
C あまり理解していない。	4	16							
D まったく理解していない。	1	0							

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	R3	R2	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価			
豊かな心の育成	思いやりと感謝の心を育む教育活動	①ボランティア活動や体験活動を計画的に取り入れたり、縦割り班で活動したりして、助け合い、認め合う心を育て、人権教育を推進する。	ボランティア活動、体験活動を通して、望ましい人間関係を形成するよう努める。(取組指標)	学校は、ボランティア・体験活動や特別活動を通して、思いやりや協力し合う心を育てる取り組みを	100	100	地域の特色を生かしたボランティア・体験活動が学年ごとに系統的に行われており、概ね児童は意欲的に活動に取り組んでいる。	・たて割り班活動の中で高学年が低学年を思いやる態度が多く見られるので、コロナの状況に注意しながら活動の場を多く設ける。	・今後も楽しく進んでボランティア活動を進めてほしい。 ・高齢者との交流をより積極的にお願いします。			
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	A 十分行っていると思う。 B おおむね行っていると思う。 C あまり行っていないと思う。 D ほとんど行っていないと思う。	67 33 0 0	38 62 0 0						
			体験活動に対して満足している。(成果指標)	わたしは、ボランティア活動や体験活動が	96	99						
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	A とても楽しい。 B 楽しい。 C 楽しくない。 D したくない。	62 34 3 1	51 48 1 0						
			学校での集団生活で、お互いに認め合う心が育っていると思う。(満足度指標)	あなたのお子様は、学校での集団生活を通して、お互いに認め合う心が	96	95						
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A よく育っていると思う。 B おおむね育っていると思う。 C あまり育っていないと思う。 D 育っていないと思う。	25 71 4 0	28 67 5 0						
			気がかりな児童に対して、全教職員が共通理解を持ち対応している。(取組指標)	教職員は、教育相談や児童理解等を通して	100	100				教職員は、日々の学校生活の中で、児童の様子をよく観察し、相談活動にも取り組んでいる。昨年に比べ、児童の思いにも寄り添えていると考えられる。	・児童が信頼して何でも相談できるような人間関係を今後も築いていく。 ・全教職員が全校児童の様子を注意深く観察し、報告や相談による共通理解を図る。	・「児童の話をあまり聞いてくれない」が0になって本当に良かったと思う。 ・どこにでもある問題だと思えます。先生方の気づきに期待しています。
			【目標指数】 A+Bの合計が100%以上	A 児童一人ひとりを十分理解し、個を大切にしていると思う。 B 子どもたちのことをおおむね理解していると思う。 C 子どもたちのことをあまり理解していないと思う。 D 子どもたちのことを理解していないと思う。	50 50 0 0	38 62 0 0						
			先生は、自分の話を聞いて何かあると対応してくれると感じている。(成果指標)	先生は、わたしが困っている時	100	93						
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 話を聞いてくれて、すぐに相談にのってくれる。 B 話を聞いてくれる。 C 話をあまり聞いてくれない。 D 話を聞いてくれない。	63 37 0 0	45 48 7 0						
			学校や教職員は、児童をよく見ていて、悩みや問題にすぐ対応してくれる。(満足度指標)	学校や教職員は、	96	92						
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 子どものことを十分理解していると思う。 B 子どもたちのことをおおむね理解していると思う。 C 子どものことをあまり理解していないと思う。 D 子どものことを理解していないと思う。	33 63 4 0	27 65 8 0						
あいさつ運動やあいさつを進んでする指導をしている。(取組指標)	私は、児童に対してあいさつや返事の指導を	100	100	コロナ禍の中、マスクを常時着用していることが、児童の挨拶にも影響を及ぼしていると考えられるが、学校での朝の挨拶運動がしっかり行われており、「自分から挨拶ができる」児童が増えてきている。	・あいさつを頑張っている児童に目を向け、評価する。 ・見守り隊の方にも頑張っている児童を知らせてもらい、全体の場でほめていく。	・この近くの児童の挨拶は十分ですばらしい。 ・挨拶すると元気な声で返ってくる。 ・日頃から校下に住む人が挨拶を交わすことが重要。子どもたちを手本にして広げていきたい。 ・登校時の挨拶に関してはあまり良くないです。地域の方からもそういう声を耳にします。こちらが挨拶しても無視する子もいます。しっかりあいさつする子は少数います。上級生がお手本を見せてほしいと思う。						
【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	A あらゆる機会を通して、意図的・計画的に行っている。 B あいさつ運動や学級の時間などにおおむね行っている。 C あまり行っていない。 D ほとんど行っていない。	67 33 0 0	62 38 0 0									
自分から進んであいさつをしたり、あいさつをされたら返したりしている。(成果指標)	わたしは、あいさつを相手を見て	96	99									
【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	A 毎日自分からしている。 B 時々、自分からしている。 C されたら返すが、自分からできていない。 D ほとんどしていない。	41 55 4 0	25 74 0 1									
あいさつをする習慣が身についていると思う。(満足度指標)	あなたのお子様は家でも	85	72									
【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	A 自分からあいさつをしている。 B あいさつをしている。 C あいさつがあまりできていない。 D ほとんどできていない。	25 60 8 7	11 61 27 1									

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	R3	R2	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価				
健やかな体の育成	体力の向上と健康な体づくり	①週2回のチャレンジタイムを業間に実施し、体力の向上を推進する。	チャレンジタイムや運動遊びの充実に努めている。(取組指標) 教員	私は、チャレンジタイム(業間等の運動)に対する意欲の向上につながる指導を A 毎回行っている。 B 週に1回は行っている。 C 行っていない方が多い。 D ほとんど行っていない。	100 67 33 0 0	86 57 29 0 14	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、マラソンや縄跳びなどのチャレンジタイムを実施できた。目標設定もしっかり立てられている児童が多く、意欲的な取り組みもできていた。	・マラソンや縄跳びのカードや掲示物は、児童の意欲につながっていたので、次年度も継続していく。	・達成感を得ることで意欲的になれるのでは。 ・是非継続してください。				
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	わたしは朝や昼休みなどに、マラソンや縄跳びに A 一生懸命に取り組んだ。 B まあまあがんばった。 C あまりがんばらなかった。 D まったく取り組まなかった。	88 60 28 11 1	87 52 35 13 0							
			チャレンジタイム(業間の体育的活動)の時間に体力の向上に努めている。(成果指標) 児童	あなたのお子様は、業間や体育などの運動を通して体力づくりに A とても意欲的に取り組んでいると思う。 B 意欲的に取り組んでいると思う。 C あまり意欲的に取り組んでいないと思う。 D ほとんど取り組んでいないと思う。	87 34 45 19 1	80 31 49 17 3							
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上	「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を継続的・計画的に実施する。(取組指標) 教員	私は、「早寝・早起き・朝ごはん」を定着するための指導を A 元気チェックの際以外にも、継続的にしている。 B 元気チェックの際、必ず行っている。 C あまり行っていない。 D ほとんど行っていない	100 63 38 0 0				100 17 83 0 0	学校で行う元気チェックや「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を促す指導は継続されているが、家庭での取り組みは、上の学年がいる家庭などで数値が悪くなっている。	・「早寝・早起き・朝ごはん」が定着できていない児童は、ゲームやYouTubeを使用する時間が長い傾向がある。 ・元気チェックカードに「スマートルール」を記入し、守らせたり、保健だよりで「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて呼びかけたりする取組を行う。	・コロナで学校、家庭共に大変ですが、連携して改善を進めてほしい。 ・各家庭での格差があることなので、親への働きかけが必要である。
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	わたしの家庭では、「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みが A 毎日できている。 B 平日はほぼできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	80 45 35 15 5	83 32 51 16 1							
			毎日規則正しい生活を送ることができる。(成果指標) 児童	あなたの家庭では、「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みが A 毎日できている。 B 平日はほぼできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	73 32 41 25 3	80 32 48 19 1							
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、元気に登校している。(満足度指標) 保護者	私は、児童の安全意識の向上のための指導を A 必要な機会以外にも、継続的にしている。 B 必要な機会には必ず行っている。 C あまり行っていない。 D ほとんど行っていない	100 67 33 0 0	100 17 83 0 0	学校では、地震でのシェイクアウトや避難訓練、防犯避難訓練、登下校の交通安全指導などを通して、児童への安全意識を啓発している。 春の自転車教室を実施できて、児童の安全意識は向上していると考えられる。自転車乗車のルール・マナーについては、今後も継続指導されるとよい。 不審者対応の防犯訓練では、職員の動き方や連絡方法などに課題があった。 本年度、見守り隊の方には、学校までの帯同もしていただき、安全な登下校ができた。	・防犯避難訓練は、課題についての改善策を施した上で実施する。 ・地域の安全マップは、前回の作成から10年ほど経過しているため、通学路や地域の安全点検を行って、波松地区と北潟地区を合わせた安全マップを作成する。	・命にかかわることなので、繰り返しの指導を願う。 ・区とタイアップした取り組みを企画してはどうか。 ・防犯ベルの点検も必要だと思う(電池切れなど)。					
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	わたしは安全に生活するように A いつも気をつけた。 B だいたい気をつけた。 C あまり気をつけなかった。 D ほとんど気をつけなかった。	100 56 44 0 0	94 54 40 5 1									
	安全に気をつけて生活することができた。(成果指標) 児童	あなたのお子様は、安全に気をつけ、自分の命は自分で守ろうとすることが A しっかりできている。 B おおむねできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	96 32 64 4 0	93 27 66 7 0									
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	避難訓練や交通安全教室等を活用し、児童の安全意識の向上に努めた。(取組指標) 教員											
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上												
	【目標指数】 A+Bの合計が80%以上												

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	R3	R2	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな体の育成	体力の向上と健康な体づくり	④家庭と連携して、情報モラルやメディアに対する自己コントロール力を高める教育を推進する。	情報モラルやメディアに対する自己コントロール力を高める教育の推進に努めた。(取組指標) 教員	私は、児童の情報モラルやメディアに対する自己コントロール力を育てる指導を A 必要な機会以外にも、継続的に行っている。 B 必要な機会には必ず行っている。 C あまり行っていない。 D ほとんど行っていない	100 22 78 0 0	令和3年度から追加	学校では、学年に応じた指導を行っているものの、学年が上がるほど、メディアに対する自己コントロールできていない児童が多くなっている。 学校での継続的な指導と共に、家庭と連携した取り組みが必要である。	・元気チェックカードに「スマートルール」を記入し、毎月「スマートルール」のふりかえりができる欄を設ける。	・屋外で楽しく遊べる環境を整備すればよいのではないか。 ・スポーツする機会を増やす。 ・児童と保護者で認識の隔たりが大きい。
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上						
			メディアのコントロールができた。(成果指標) 児童	わたしはユーチューブやメール、ゲームなどを、時間を決めてすることが A いつもできた。(まったくしないこともふくめる) B だいたいできた。 C あまりできなかった。 D ほとんどできなかった。	75 40 36 21 4				
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上						
			家庭内でメディアコントロールに関する意識が高まっている。(満足度指標) 保護者	あなたのお子様は、ユーチューブやメール、ゲームなどを、時間を決めてすることが A いつもできている。(まったくしないこともふくめる) B だいたいできている。 C あまりできていない。 D ほとんどできていない。	53 19 34 29 18				
			【目標指数】 A+Bの合計が80%以上						

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	判断基準	R3	R2	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価				
信頼される学校	地域や家庭との連携保幼小中の連携	①地域の自然・もの・人を生かした教育活動を行う。	地域の自然・もの・人を活かした教育活動を実施した。(取組指標) 教員	私は、地域の自然・もの・人を活用した教育活動を A 計画的に実施し、内容等の見直しも適宜行っている。 B 計画通り実施している。 C あまり実施していない。 D ほとんど実施していない。	100 56 44 0 0	100	本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の活動が制限されたり、活動自体が中止になったものがあつた。本校では、地域の特色を生かした体験活動が系統的行われているので、児童はふるさとのよさの感じ方も学年に応じて深まってきていると考えられる。 また、ICT機器のよさを生かした表現活動も行うことができた。一部の地域体験活動において、天候や場所の条件が悪かったため、活動内容の変更があつた。	・今後も新型コロナウイルス感染症対策をしっかり行った上で、可能な限り地域の人との交流を進める。 ・地域のよさを児童が「再発見」できるように、「自然やものとの出会い」や体験内容を充実させていく。 ・活動内容や児童が考えたことなどをICT機器を生かしてまとめ、多くの人に見てもらえる機会も作っていく。	・いつものびのびと活動しているように見える。 ・子どもたちの視野を広げる活動を継続してほしい。 ・他校の児童と一緒に体験活動をすると、更に地域の良さが理解できるのでは。見慣れた自然が北潟地区にしかない貴重な自然であることに気づくのでは。				
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上										
			地域の自然・もの・人についての理解を深めた。(成果指標) 児童	わたしは地域の自然・ものなどのよさが A よく分かるようになった。 B 分かるようになった。 C あまり分からない。 D ほとんど分からない。	98 62 36 1 1								
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上										
			地域の自然・もの・人を活用した教育活動を実践していると感じている。(満足度指標) 保護者	学校は、地域の自然・もの・人とふれあう学習を A 十分進めていると思う。 B おおむね進めていると思う。 C あまり進めていないと思う。 D 進めていないと思う。	96 37 59 4 0								
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上										
			定期的に学校を公開したり、お便りやHP等を通して開かれた学校づくりを進めている。(取組指標) 教員	私は、学校(授業)公開やお便り、HP等を通して、情報を A 迅速・正確に発信していると思う。 B おおむね迅速・正確に発信していると思う。 C あまり迅速・正確に発信していないと思う。 D 発信が不十分であると思う。	100 50 50 0 0					100	学校はホームページやブログ、学校便り等で地域への発信を積極的に行っており、また、学級担任も通信等で積極的に児童の様子を家庭へ発信している。保護者も学校が発信する情報から、学校や児童の様子を概ね理解してもらっている。	・学校からの発信をより多くの人に見てもらえるように、発信内容を充実するとともに、メールやQRコードなどでも案内をして、情報発信を工夫していく。 ・学校公開や行事において、次年度も、感染症拡大防止のための参観者制限を行うことが考えられるが、活動内容や児童の様子を動画配信していくとともに、地域の方々にも見てもらえる機会を増やします。	・学校便りをいつも拝見している。コロナで学校行事ができず残念でしたが、今後ともよろしくお願ひしたい。 ・限られた時間での情報発信は難しいと思うが、HPに写真やビデオを載せてはどうか。 ・子どもが撮ったものを見たい。 ・昨年、学校行事のビデオを制作していただきありがとうございます。今年も学校と公民館がコラボできればと思います。よろしくお願ひします。
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上										
			学校の教育活動や子どもの様子を知ることができる。(満足度指標) 保護者	あなたは、学校開放やお便り、ブログ等により、学校や子どもたちの様子 A よくわかった。 B おおむねわかった。 C あまりわからなかった。 D ほとんどわからなかった。	90 37 53 7 3								
			【目標指数】 A+Bの合計が90%以上										